

## ハルシオン・マルチファンクション・コンペンセーター オーナーズ・マニュアル

### 著作権についてのご注意

- このオーナーズ・マニュアルは著作権が設定されており、Halcyon Manufacturing Inc. およびハルシオンジャパン株式会社の文書による事前の許可なく、その全体または一部分を複製、複製、翻訳することはできません。またいかなる電子メディア、電子機器への再生可能な形で入力することはできません。

### 一般的な注意と警告

- このMultifunction Compensator (MC=多機能コンペンセーター) を使用する前に、使用するダイバーは、広く認められているダイビング指導機関の、スクーバ・ダイビングと浮力コントロールのトレーニングを受け、認定されていなければなりません。トレーニング経験のない未認定のダイバーによるダイビング器材の使用は、重大な障害事故、死亡事故につながる可能性があります。
- MCを使用する前にこのオーナーズ・マニュアルを読んでください。適切なウェイト量が決められ、MCの機能を使いこなし、浮力調整ができるようになるために、プールのような管理された環境のもとで練習してMCの操作に熟達してください。
- 毎回のダイビングの前に、すべての部品が正しく機能するか、MCにダメージやエア漏れの兆候がないかなど、このマニュアルに述べられている手順にしたがって完全な使用前点検を実施してください。MCの各部の機能に不具合、損傷があるときは正式なハルシオンのディーラーによる修理が完了するまでは使用しないでください。
- MCはリフトバッグではありません。重量物を水面に引き揚げる目的で使用しないでください。リフトバッグとして使用すると、MCに修理不能の故障が起きる可能性があります。またコントロール不能浮上の原因になることがあります。
- MCに空気を入れ過ぎないでください。コントロールされた浮上をしてください。急浮上、コントロールできない浮上は、動脈ガス塞栓症、減圧症の原因になります。さらには重大な障害、死亡事故の原因につながります。
- コントロールされた浮上ができないときには、ただちにMCの排気を開始することが重要です。中性浮力がとりもどせないときには、浮上スピードを遅らせるための排気を続けてください。
- エア切れや浮上コントロールができないような緊急状況下では、ただちにウェイトを外して捨てることが重要です。水面には到達する手段として、MCのパワーインフレーターだけに頼らないでください。
- オーラルインフレーターから空気を吸わないでください。MCの中のガスは汚染されている、あるいは有害ガスの可能性があり、窒息、重大な障害、肺の感染症などの原因になる

可能性があります。

- ハルシオン社のトレーニングを受けた認定技術者以外は、MCの分解、修理、潤滑などをしないでください。認定技術者によらない修理サービスは、製品保証が無効になります。
- 少なくとも1年に1回、ハルシオンが指定する内容のMC点検修理サービスをハルシオンの認証ディーラーで受けてください。この毎年の点検修理サービスには、パワーインプレーターのオーバーホール、ブラダー（空気袋）やバルブ接続部などMC全体のエア漏れのチェックなどが含まれます。

**警告：**マルチファンクション（多機能）コンペンセーターはライフ・ジャケットではありません。MCは着用者の頭部が水面から出る姿勢を、確保するものではありません。救命具、個人用浮き具（PFD=Personal Floating Device）としてのアメリカ沿岸警備隊の規定条件を満たしていません。ただちにアシストしてくれるバディがいなく、MCがあっても、水中で意識を失うと、溺れによる重大な障害や死亡事故につながる可能性があります。

MCは、水面下でリラックスし、顔を伏せた安定した水泳姿勢で中性浮力をコントロールするように基本的な設計がなされています。また水面で休息する浮力はありますが、救命具、個人用的浮き具（PFD）としての機能をはたす設計はなされていません。アメリカ沿岸警備隊の規定条件を満たすには、水面で自動的に顔が上向きになり、頭部が水面から出るようにデザインされていなければなりません。このPFD（個人用浮き具）は、ボヤンシー・コンペンセーター（BCD=浮力調整具）とは違った特性をもつように設計されています。顔を上げた姿勢でダイバーを浮かす能力は、シリンダー、保温スーツなど、そのときに使用している器材によっても変わるだけでなく、意識を失う前に膨らます機能が備わっているかどうかでも違ってきます。

これらの理由から、つねにバディ・ダイビングをすること、しかもバディ・チームは接近した位置関係を保つことが重要です。ダイビング中に意識喪失を起こした場合、浮き具だけでは顔を水面より高く保つことはできません。

**警告：**このマニュアルは、浮力コントロール・テクニックのガイド・ラインになっていますが、プロフェッショナル・ダイビング・インストラクターによるトレーニングの代わりになるものではありません。正しくウェイトが装着されていないと、重大な障害や死亡事故につながる危険な状況をまねくことがあります。水面下で最適な浮力を得るウェイト調整に自信がないときには、ダイビング・インストラクター、あるいはハルシオン認証ディーラーによる必要な講習を受けるまではダイビングをしないでください。

この取扱い説明書についてのご質問は、ハルシオン・ディーラーまたはハルシオンジャパ

ンまでお問い合わせください。

## 目次

- マルチファンクション・コンペンセーターのフィッティング
  - ▶ ハーネスの調整
- マルチファンクション・コンペンセーターの微調整
  - ▶ ハーネス・アクセサリーの配置
  - ▶ スクーバシリンダーへの取り付け
  - ▶ MC収納パック
- マルチファンクション・コンペンセーターのウエイティング
  - ▶ フィックスド（固定）バラスト
  - ▶ アクティブ・コントロール・バラスト（ACB）
  - ▶ ウィングとシリンダーのマッチング
  - ▶ ACBシステムの取り付け
  - ▶ ACBシステムの使用法
- MCシステムのプレダイブ点検
- MCシステムの手入れとメンテナンス

ハルシオンのマルチファンクション（多機能）コンペンセーターは、あらゆる水中環境で優れた浮力コントロール能力を発揮します。ハルシオンのマルチファンクション（多機能）コンペンセーターは、プロパー・ボヤンシー・ウィング、浮力補助部、ウェイトシステム、セキユア・ハーネス（装着用ハーネス）などの各コンポーネントが一体になって働くことで、水面下と水面で、安全で十分な浮力コントロール能力をダイバーに提供します。ダイビング・コンディションに合わせるために、また同じ器材を複数のダイブ・チームが使用できるように、ハルシオンMCのほぼすべてのコンポーネントは、コンポーネントごとに調整できるようになっています。

MCハーネス・システムはあらゆる体型に合わせ調整できます。ジャケット・タイプのBCDに比べてより微妙なフィッティング調整が可能です。MCシステムは、水面下でも水面でも、スクーバ・システム全体をベスト・コントロールする設計になっています。

セキユアハーネスの正しいフィッティングは、使用する保護スーツのフィッティングから始まります。ドライスーツを使用する場合は、すべてのインナースーツの厚さをチェックします。ドライスーツの厚みに、すべての保温用インナースーツが加わるとかなりのかさばりになり、ハーネスのサイズ調整に大きく影響します。

バックプレート（背板）の裏側と股ストラップについているトリグライド・ファスナー（留め金具）を調整すれば、特別の器具を使用しなくてもハルシオンMCハーネスの調整が可能です（図1）。肩ストラップを調整するには、バックプレートの裏側にあるトリグライド・ファスナーを緩めて、スロット（通し穴）から追加のベルトを引き出します（図2）。ウエストベルトの両側から、左右同じ長さのストラップを引き出して、ストラップ調整をします。手の指数本が肩ストラップの下に入るのが、正しい調整です（図3）。きつ過ぎないようにするには、もっとも厚い保温スーツに合わせて、肩ストラップを十分に緩めることが必要です。しかも水中でも陸上でも、脱装着がしやすいようにハーネスを調整されていなければなりません。さらにステージボトルを胸近くの上部Dリングにしっかりと固定できるきつさも必要です。

肩ストラップのフィッティングの総仕上げは、まずストラップを十分に緩めて、バックプレートを動かしやすくします。バックプレートをタンクにセットします。正しい取り付け位置は、首の後ろ、バックプレートの上部に両手が届く高さです。バックプレートに手が届けば、すべての器材を装着した状態で、バルブに必ず手が届きます（図4）。バックプレートの位置が決まったら、ストラップの下に指が2-3本入るぐらいまでアーム・ストラップを締めていきます。それでも肩から滑らせて外せるぐらいの余裕も必要です。ストラップの余分なたるみがないように注意してください。ハーネスのフィッティングが

緩すぎるとバックプレートがずり下がってしまい、バルブに手が届かなくなります。

股ストラップはきつすぎず、しかもタンクに手が届くように調整します。ウエストベルトはきつすぎないようにしっかりと調整します。ウエストベルトの締め過ぎは、呼吸の妨げになります。ウエストベルトのバックルが必ず右側にくるように調整します。バックルがつねにこの位置にあれば、バックルを間違えて股ストラップを外してしまうことはありません。ウエイトベルト・バックルはエクスプローラーH I Dライトなどのキャニスター（バッテリーケース）を取り付けるのにも使われます。

股ストラップの調整をするには、まず股ストラップがウエストベルトの下にならないように、ウエストベルトのバックルを締めます。次に股ストラップをウエストベルトまで引っ張っていきます。このときの股ストラップの輪がウエストベルトの上に、1/2インチ（12 mm）ほど出ることになります。

陸上で立っているときには、MCはしっかりと装着されていて、しかもきつ過ぎてはいけません。水中での方向転換のときにシリンダーが大きく動かないように、ハーネスをしっかりと装着しなければなりません。肩や腕の動きを妨げるほど、きつ過ぎないようにします。

### MCシステムの微調整

MCハーネスはシンプルさが特長です。セキュアハーネスは胸の左右両側に1つずつDリングをつけることで、アタッチメントが多すぎる無用な混乱を避けています。片方のDリングは左の腰に、他のシングルDリングはMCの股ストラップ前方と後方につけられています。腰のリングには、圧力計、ステージボトル、ダイビング中に使用するアクセサリ類を取り付けます。

ナイフは股ストラップの左、ウエストベルトのナイフケースに入っていて、左右いずれの手でもすぐに使えます。ナイフはラインを切るための、コンパクトなデザインになっています。バックアップ用ライト2本は、胸のDリング2個にそれぞれ1本ずつ取り付けます。この2本のライトはゴムバンドストラップで固定します。この位置はライトに必ず手が届き、しかも動きの邪魔にならない位置です。

セキュアハーネスのストラップを正しく調整したら、つぎに5個のDリングの位置の微調整をします。肩のDリングは肩ストラップのやや高めの位置にします。とくにダイブ中にステージボトルを使う予定があるときは高めに調整します。Dリングの位置が低過ぎると、ステージボトルは体から離れてぶらさがり、引きずって水中環境にダメージを与える原因にもなります。また肩Dリングは、スカウト・バックアップ・ライトを正しく装着するため、

さらに浮力調整用インフレーターホースを使いやすくするために、高い位置にセットします。しかしクリップと同じ側の手で、アクセサリーが外せないほど高くてはいけません。Dリングの位置決めをするには、腕を水平に伸ばしてから、肘を折って親指をまっすぐに肩ストラップにもってきます。そのときに親指の真ん中が、Dリングのセンターと交差します(図5)。次に右腕が体のどこを通っても左肩に届くようにします(図6)。右側のDリングが腕と胸に挟まれていないことを確認してください。左側のリングも同じように確認します。どちらかのDリングがはさまるようなら、上方に動かして調整します。

腰のDリングはSPG(残圧計)とステージボトルのクリップに使います。Dリングの位置決めをするには、体側に沿って左の親指をウエストストラップにぶつかるところまで真っすぐに伸ばします。親指はDリングのところにくるはずですが、腰(ヒップ)骨のすぐちかくです。このDリングの位置は、MCシステムを使ってみた後、再調整が必要になることがあります。水中でSPGをクリップする、外す練習をしてください。ステージボトルを装着するときには、ボディにボトルの位置をチェックしてもらってください。腰のDリングは、SPGの付け外しが不便なほど遠い、腰の裏側までいかないように、同時に浮力のついたステージボトルが邪魔になるほど前にこないように位置調整します。

股ストラップの後方側のDリングは、リールやリフトバッグのような、あまり頻繁に使わない器材のクリップに使います。このDリングは器材をクリップでき、外せる(しかもタンクの底部で邪魔されない)、十分に低い位置にセットすることが必要ですが、器材にすぐに手が届かぬほど低すぎてはいけません。後ろ側Dリングの典型的な位置は、バックプレートの底端から、手のひら1つ分下がったところです(図7)

ストラップの前部Dリングは、ダイバー牽引用スクーター専用リングです。このDリングには、他の器材を一切クリップしません。クリップすると器材がプロペラの水流で、重大な拘束トラブルを起こす可能性があります。

### MCシステムの最終セッティング

エクリプス・シングルタンク用ウィングを使用するときには(図9)、シングルタンク・アダプターを付属のボルト2本でウィングに取り付けます(図9)。カムストラップにシリンダーを通し、正しくシリンダー・ヴァルブの位置を決めてから締めつけます(図10)。

ダブルタンクを使うときには、エクスプローラーまたはエボルブ・ウィングを、バックプレートとシリンダーの間にサンドイッチになるように、シリンダーにボルトで取り付けます。シリンダー・バンドのボルトをウィングの2つの鳩目穴に通してとめます(図11)。

**警告：**カムストラップは濡れると伸びます。最終調整の前にあらかじめ濡らしておいてください。強く締め付けて、タンクを完全に固定してください。しっかりと固定されたことを、毎回ダイブ前に、必ずチェックしてください。ダイビング中にMCからシリンダーが外れると、空気の供給が断たれ、重大な障害事故や死亡事故につながる可能性があります。

**警告：**ハルシオン・ウィングは、シングルタンク、ダブルタンク用があります。シングルタンク、ダブルタンク、それぞれ専用のウィングを使用してください。タンクのタイプに合わない揚力のウィングを使用すると浮力不足を起こします。浮力不足は重大な障害事故、死亡事故につながる可能性があります。ダイビングに使用する前に、プールのような管理された環境で、MCシステムが完全にセットされていること、正しい量のウェイトが装着されていることをテストしてください。

## MCシステムとリフトデバイス

オプションのMCストレージパック（収納パック）（図12）は、補助リフトとシグナル器材の収納ポケットとして使います。このパックにリフトやシグナル器材を収納しておけば、陸上、船上、水中などで、誤って器材を壊す、あるいは引っかけるのを防げます。このストレージパックは、セキュアハーネスのバックプレートに付属の8本のボルトで取り付けます。補助リフトは左腰のDリングにスナップで取り付けから、平らに畳んでストレージパックに収納します。リフトは、必要なときに左手でボルトスナップを外し、左下方に引くだけで引き出せます（図13-16）。リフトをパックから引き出したら、オーラル、または水面で低圧インフレーターホースなどの空気源を使って膨らませます（図17）。

このMCストレージパックは、シングルシリンダーでダイビングをするときには、緩衝パッドの働きをします。収納できる補助リフトには、ダイバー・アラート・マーカ、セーフティ・ソーセージ）、サーフ・シャトル、リフトバッグ、ハルシオン・ダイバーズ・ライフ・ラフトなどがあります。ハルシオンのリフトデバイスのリストはこのマニュアルの付録にあります。

## MCシステムのウェイト調整

ハルシオン・マルチファンクション・コンペンセーターは、ウェイト調整が素早くしかも

簡単にできるようになっています。正しくフィッティングされたセキュアハーネスは、保護スーツの厚みを計算し、ウェイトシステムに合わせた微調整をするだけで、エクリプス・シングルシリンダー・ウィング、エボルブまたはエクスプローラー・ダブルシリンダー・ウィングのどちらにも使用できます。ダイビングの開始時も終了時も、同じように浮力コントロールができるようにするのがスクーバ・ダイビング器材の調整のゴールです。

正しいウェイト調整は、多くのファクターをバランスさせることで成り立っています。水面での浮力の増加（圧縮される前のネオプレン・スーツ）、呼吸ガスの重量変化（消費による重量の減少）、空のシリンダーを想定した3mでの中性浮力の維持、などがそのファクターに含まれます。ネオプレン・スーツを着たダイバーが沈むために装着するウェイト量の80%以上は、水面だけで必要です。深度下では、保温スーツの素材が圧縮され、浮力が減る分、浮力を補わなければなりません。さらに水面近くでは、圧縮から解放されたスーツと、空近くなったタンクによって増加する浮力への対応が必要になります。

ハルシオMCシステムでは、正しい浮力を得るさまざまなウェイト調節法が選択できるようになっています。アクティブ・コントロール・バラスト（ACB）システム（図18、19）、キャニスター・ライト、V-ウェイト（ダブルタンク用バックプレートに装着）、シングルタンク用ウェイトアダプター、ステンレス製/アルミ製のバックプレートの使用、ハルシオン・トリムウェイト（シングルタンクの脇に装着する）、さらには従来のウェイトベルトなどの多くの調節オプションを組み合わせたウェイト調節ができます。

例えば、エクリプス・ウィングでは、リリースタイプ、固定タイプのバラスト（ウェイト）を組み合わせ使えます。3kgの固定バラストはハルシオンのステンレス・バックプレートと同じ重さです。ステンレス・バックプレートまたはハルシオン・シングル・タンクアダプター（2.7kg）を使えば、その分の固定バラストを減らすことができます（図20）。1から4kgのウェイトをハルシオン・トリムウェイト・キットに組み込んで、直接にタンクに取り付けることができます。適量のウェイトシステムがセットされ、正しく浮力調整ができている状態では、タンク・トリムウェイトが、水面で頭を上げた姿勢をとりやすくしてくれます。ただしMCシステムをライフ・ジャケットの代用器材と考えないでください。MCシステムは水面用の浮き具として設計されたものではないからです。正しく取り付けられたハルシオン・トリムウェイトは、ダイバーの安定した水平姿勢を保ちます。ハルシオン・アクティブ・コントロール・バラスト・システムを使用すれば、さらに微妙なウェイト調整ができます。このウェイトシステムでは13.6kgまでのリリースタイプのウェイトを収納できます。

**警告：**固定タイプのウェイトの着けすぎによる、オーバーウェイトにならないことが重要

です。固定タイプ・ウェイトを着けすぎると、緊急時のスイミング・アセントのときに捨てる、その分リリースタイプのウェイトが着けられなくなります。

**警告：**ダイビングに先立って、浮力チェックをしてください。BCDの空気を完全に抜いた状態で、フル充填したタンクとすべてのウェイトを装着して、その重量を担って、水面までスイミング・アセントできることを、必ず確認してください。浮力のコントロール・トラブルが起きたときに、すべての装備をコントロールできることを確認しておいてください。

### ウィングとシリンダーの正しい組み合わせ

ハルシオンのエクリプス30（13.6kg）、エクリプス40（20.2kg）は、シングル20リットル、あるいはアルミ80のような、スチールとアルミの中程度の重量のシングルシリンダーに合わせた設計になっています。

ハルシオン・エクスプローラー・ダブルシリンダー・ウィングは、揚力20.4kgと25kgの2サイズが用意されています。エボルブ・ウィングは揚力20.4kgと27.2kgサイズがあります。エクスプローラーとエボルブ40ウィングは、基本的に80キュービック・フィート・ダブルシリンダー、または10リットルから14リットル・ダブルシリンダー用に設計されています。エクスプローラー55、エボルブ60ウィングは、12から15リットル、95から104キュービック・フィートのシリンダーまで、アルミとスチールのダブルシリンダーへの幅広い対応ができます。エボルブ60は20リットル・ダブルシリンダーに向いています。エクスプローラーとエボルブ・ウィングはシングルシリンダーには使用できません。

### アクティブ・コントロール・バラスト（ACB）システムを使う

ハルシオン・アクティブ・コントロール・バラストシステム（ACB）は、“浮力バランス”を維持する固定ウェイトの補助機能をはたします。従来のウェイトベルトに代わる機能を目的にして設計されました。このACBシステムは、ハーネス・ウエストベルトに取り付ける2つのウェイト用ポケットからできています。

### セキュアハーネスへのACBの取り付け

1. 必要ならバックプレートとハーネスをウィングから取り外します。
2. ウェストストラップの左側のバックルとDリングを外します。

3. 右のウェストストラップに右ポケットを通します。ウェイトポケットのハンドルが必ずダイバーの前を向くようにします。
4. 左のウェイトポケットを、ハンドルが前を向くように、左のウェストストラップに通します。
5. 左のウェストストラップにバックルを付け戻します。ACBポケットのDリングがオリジナルの左ヒップのDリングの代わりになることに注意してください。
6. ポケットへのウェイトの収納は、非常に簡単です。中からインナーポケットを引き出して、必要量のソフトウェイトあるいは鉛のウェイトを入れます。それぞれのポケットの内側にあるベルクロファスナーにウェイトを固定します。インナーポケットをポケットに戻します。ポケットに入れるウェイトの必要量は変わるので、ストラップは調節できるようにになっています。ダイビング前にはしっかりとバックルで止めてください。

### ダイビング中のACBの使い方

ウェイトポケットを外すには、バックルを外し、インナーポケットを引き出し、体から離します。インナーポケットがどこにも引っ掛かっていないことを確認してから捨てます（図23-25）。

### MCシステムのプレダイブ・インスペクション

毎回の使用前に、MC全体の視認点検と機能チェックをしてください。ブラダーやバルブ類に故障の兆候が見られるMCは、ハルシオン認定ディーラーによる完全な点検と修理を受けるまで、絶対に使用しないでください。

### インスペクション・チェックリスト

1. 呼吸用空気源にウィングのインフレーターホースを接続します。インフレーターボタンを断続的に押して、空気が正常に流れていることを確認します。ボタンを離せば空気の流れが完全に止まることも確認します。
2. オーバープレッシャー・バルブのスプリングとバルブの完全な作動をテストするために、オーバープレッシャー（OPバルブ）のコードを弾くなど、手動で操作してみます。OPバルブが作動するところまで、ウィングに空気をいれます。バルブが過剰圧力を逃がせることの確認のために、繰り返しウィングを膨らませます。空気を入れるのを止めて、膨らんだ状態を保てることを確認してください。
3. すべてのバルブがうまく排気できることの確認のために、オーラル・インフレーター・ボタン、急速排気バルブ、オーバープレッシャー／マニュアル（手動）両方の排気バルブの機能をチェックしてください。いっばいに膨らませたウィングに耳を近づけて、漏

れがないことをチェックします。このチェックは、低圧空気ホースは接続しないで行います。空気漏れの疑いがあれば、さらに水に沈めて気泡が出るかテストします。

4. ストラップの伸び、緩みがないことの確認のために、スクーバシリンダーにMCを取り付けて、2本のカムストラップの締め具合の最終チェックをします。必要なら、もう一度締め直します。
5. エントリーの前に、ACBシステムのポケットがファステックス・バックルで、MCに正しく固定されていることをチェックします。

**警告：**空気漏れ音が聞こえたとき、5分以内にブラダーが縮み始めたときは、ハルシオン認定ディーラーによるハルシオンの所定の点検修理サービスを受けるまで、そのMCは使用しないでください。

**警告：**バックルがしっかりとハマっていないと、ACBシステム・ポケットを落とす可能性があります。水面下で、両方のウェイトが突然リリースされるようなことになると、コントロール不能の浮上を起こす可能性があり、重大な障害事故、死亡事故につながります。

## MCシステムのケアとメンテナンス（取り扱いと手入れ）

正しい手入れをしていただければ、ハルシオンMCは長年にわたって安心して使用していただけます。MCを長持ちさせるには、以下の故障予防のための手入れを必ず行ってください。

### 故障を予防する手入れ

殺菌用塩素の強いプールでの、繰り返し使用、長時間使用は避けてください。化学剤が使用されている水中での長時間使用は、MCの素材にダメージを与える可能性があります。

MCウィングを、とがったものや表面の荒いざらざらしたものにこすりつけないでください。ブラダーの傷やパンクの原因になります。MCウィングには鉛ウェイトのような、重量物をのせたり落としたりしないでください。ウィングに少し空気を入れて蔵っておけば、パンクが起きにくくなります。

直射日光や高温に長時間さらさないでください。太陽光線中の紫外線はナイロン素材を退色させます。また高温はMCの接着面にダメージを与えることがあります。

油脂類、ガソリン、そのほか各種溶剤、またこれらの含有物と接触させないでください。

**注意：**ハルシオンMCのインフレーター推奨常用圧力は8.3 kg - 11 kgです。

**注意：**ハルシオンMCシステムの使用温度は、マイナス20℃～プラス70℃です。水面、水面下いずれでも、氷点近く、あるいは氷結温度域でのダイビングでは、有効な対応策をとる必要があります。

### ダイビング後のメンテナンス

腐食、塩分結晶、塩素などによるダメージを防ぐには、使用のたびにMCの内外を完全に真水で洗ってください。以下の手順で洗います。

1. クイック・ディスコネクト・ホースの低圧空気で、パワーインフレーターに圧力をかけておきます。
2. 水まき用のホースなどを使って、オーラルインフレーターから直接水を注いで、ブラダの内部をよく洗います。さらにMCの外側全体を洗います。
3. 完全に水を抜きます。パワーインフレーターバルブを押さないように注意しながら、オーラルインフレーターから、またオーバープレッシャー・ヴァルブからも水を抜きます。
4. 保管の前にまずMCの内側外側両面を乾かすために膨らませます。直射日光の当たらない、涼しく乾燥した清潔な場所に、少し膨らませた状態で保管してください。

### マルチファンクション・コンペンセーター諸元

- エクリプス30シングルシリンダー・ウィング:13.6kg揚力
- エクリプス40シングルシリンダー・ウィング:18kg揚力
- エクスプローラー40ダブルシリンダー・ウィング:18kg揚力
- エクスプローラー55ダブルシリンダー・ウィング:25kg揚力
- エボルブ40ダブルシリンダー・ウィング:18kg揚力
- エボルブ60ダブルシリンダー・ウィング:27.2kg揚力